

鯖江市議会・市民創世会

大門よしかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)52-7488 携帯090-6810-2462

ごあいさつ

過日の台風19号は東日本各地に膨大な雨を降らせ、従来の常識を覆すような広範囲に甚大な被害をもたらしました。昨年の西日本豪雨も過去に例をみないほどの広範囲の水害に見舞われましたが、その傷跡も癒えないうちに、今年も数々の天災に見舞われています。

近年の台風の巨大化は地球温暖化に伴う海水温の上昇による水蒸気量の増大が原因と学者の見解は一致しているようです。地球は長い歴史の中で温暖化や寒冷化を繰り返していますが、人類の産業革命以来の化石燃料の消費に伴う気候変動の急激さは、地球史の中でも最も激しい現象の一つと言われています。



宇宙ステーションから見た巨大台風

私たちはいま、地球が長い歴史の中で蓄えてきた財産(化石燃料)を食いつぶし、そのツケを後世の人類に押し付けているのかもしれない。もっと謙虚な気持ちで経済活動や生活を見直すべき時代に入ってきたと言えるのではないのでしょうか。

国連が提唱する、持続可能な開発目標「SDGs」(エスディーゼズ)に日本政府も賛同し、全国の自治体に取り組みを促しています。鯖江市もこれに賛同し、17の指標の内 No.5(ジェンダー平等を実現しよう)

を重点指標と位置づけ、関連指標にも拡げていく取り組みを目指しています。具体的には

- ◎男女が家庭の仕事の分担を話し合ってみよう
- ◎無意識に押し付けられている役割は無いか考えようという事です。

男女がお互いに協力し合う事で、女性活躍の素地を整え、女性ならではの視点や取り組みで

社会により積極的に貢献していただきたい、という考え方です。何よりも男性の協力が肝要です。女性に今より更に負担をお願いするという事ではありません。

最後に、二期目に当たり4年間の経験を活かし、より信頼される議員として活動していかなければならないと考えています。引き続きのご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。



9月議会一般質問より

(鯖江市のHPで本会議録画の配信を行っています)

公共施設使用料と減免について

公共施設の使用料と減免制度の見直しは市民に直接負担を求める大変重要なテーマであり、市議会としても慎重かつ十分な審議を重ねてきました。今回は主に地区公民館における文化講座を中心に減免のあり方について質問をしました。

福井市、越前市など県内他市町は文化講座のような個人の趣味に係る使用料に対し、使用料免除の対象になっている例はほとんど見られません。その点、鯖江市の公共施設はそのほとんどが免除になっています。このような環境のもと、鯖江市民は使用料の減額免除制度を活用することによって、各種団体活動の活性化や施設利用率の向上

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えようための17の目標



SDGsの取り組み

などかなりの成果を上げてきたのも事実です。

私は昨年度12月議会と3月議会で使用料の料金体系について質問と見解を述べ、それらの幾つかは理事者に御理解をいただき、公平性と利便性が高い合理的な制度になって来たと考えています。



(Q) 基本方針と例外規定の見直しについて

(A) 従来、午前・午後・夜間の3区分を昼間・夜間の2区分とし、1時間単位とします。また、空調使用料は使用した場合のみ基本使用料の2割分を加算します。

減免規定の見直しは、基本方針として、これまで免除されていた団体も原則免除とはせず、実際の基本使用料の2割をご負担いただきます。ただし、例外として

- ①地域で活動する公共的団体が地区の公民館や体育館、小中学校を使用した場合
 - ②また市内の小中学校を初め、高校や認定こども園、保育所、幼稚園が使用した場合
 - ③市内の青少年健全育成団体が児童・生徒のみを対象とした活動のために施設を使用した場合
 - ④市内の障がい者団体が総会などで施設を使用した場合
 - ⑤区長会連合会など地区で活動する公共的団体の上部団体がその活動のために施設を使用した場合
- これらは、これまでどおり使用料を免除します。

(Q) 地区体育館においては最小区画を4分の1とし、基本使用料は4分の1に相当する金額と条例に明記すべきでは

(A) 市の総合体育館、スポーツ交流館の料金規定においてアリーナの分割使用の考え方に準じた取り扱いをしていますが、算定方式を明確にする意味から関係条例の整備を年度内に諮り分割利用に対応します。



部分使用で出来るスポーツ(ソフトバレーボールなど)

(Q) 文化講座の使用料収納方法について

(A) 文化講座の1年分の使用料の算定については基本的に、あらかじめ把握ができる公民館の休館日や地区の行事等を除いた日で何回利用されるか算定し、それに応じた時間単位の使用料金から基本料金を積算し、これの20%の使用料を御負担いただきます。また、空調料は半年分を基本使用料の20%御負担いただきます。

文化講座等の開設承認申請書の記載内容に基づき開設承認を行う際に、1年分の使用料の納付書を発行し、納付していただきたいと考えています。

(Q) 年間使用料のモデルケースの概算は

(A)年間45回の実施として2割負担での仮定の積算です。

① 地区体育館(全面使用、週1回、日中2時間)

使用料 240円(1,200×0.2)×2時間×45回=21,600円

② 大ホール(200㎡~400㎡未満、週1回、日中2時間)

使用料 180円(900×0.2)×2時間×45回=16,200円

空調費 使用料×1/2(半年分)=8,100円 計24,300円

③ 会議室(30㎡~100㎡未満、週1回、日中2時間)

使用料 40円(200×0.2)×2時間×45回=3,600円

空調費 使用料×1/2(半年分)=1,800円 計5,400円

こうした事例を説明会等で周知に努めて行きます。



(意見) 大体の概算が掴めれば次の年の会費等に反映できると思います。そして、2月中旬の文化講座開設申請書の提出までにクラブとしてどのように対処すべきか考えなくてはなりません。使用料をできるだけ低く抑えたいと考える場合、例えば週3回を2回に減らす、3時間を2時間に短縮する、広い部屋から狭い部屋に移る。などの対策が考えられます。

利用する市民の立場に立った合理的な制度をつくり、施設利用率の向上と収支の改善に努め、施設の活性化を図るように要望します。また、受益者負担の考え方、減免規定の見直し理由などを明確にし、市民に分かり易く説明するよう要望します。



北陸線の3セク化と交通網体系について

本年2月6日に鯖江市と市議会がともに国土交通省および県選出の国会議員に特急存続を要望しました。しかし、国は特急存続に否定的でした。7月8日付けの日刊県

民福井による県内自治体への特急存続に対するアンケート記事では、丹南地区沿線市町に絞りますと賛成は鯖江市のみです。福井新聞の世論調査では特急存続を望む声は53.8%と半数以上となっていますが、沿線自治体が一致団結して特急存続運動を望むのであれば、県も地元国会議員も前向きに取り組めますが、足並みがそろっていない現状では大変厳しいと言わざるを得ません。



2023年春に敦賀駅開業予定の北陸新幹線

(Q) 現状をどのように分析し、これからの特急存続運動をどのように進めていくのか

(A) 市長 沿線市町の温度差は縮まっていません。貨物線の使用料も減るし、車両も老朽化しており、それらの整備もあります。乗り入れとなると、JR西にお願いしなければならないでかなり厳しいです。

越前市の場合は、新しい駅整備に相当なお金がかかるということで、温度差を埋めるというのは非常に困難です。

しかし、大阪までのフル規格開業まではフリーゲージトレインで運行する約束だったので、国の責任で暫定開業までは「サンダーバード」を福井から運行するという運動は展開して行きます。乗り入れに掛かる費用負担はあくまでも国の責任でやってくれと声高に主張していきます。

ただ、「しらさぎ」の乗り入れは非常に厳しいです。これは未来永劫敦賀で乗りかえというような形になっています。敦賀駅の上下分離であっても乗りかえは乗りかえです。

北信越5県の44市でつくる北陸新幹線の関係都市連絡協議会で「しらさぎ・サンダーバード」の現行運行本数の維持ないし拡大の運動をしています。また、杉本知事が私の要望についても一緒にやっというということで、そういった面では追い風だと思います。

(Q) 市民団体がしらさぎ存続の署名活動を行っている。市としてはどのように関わっていくのか

(A) 2027年のリニア新幹線名古屋開業も見据えた上で、「しらさぎ」の福井までの存続をJR各社に強く求めるとして、目標10万人とした署名活動を展開しています。敦賀開業後も中京圏への利便性を確保するためには「しらさぎ」を引き続き運行させることが重要であると考えていますので、このような市民団体の存続運動に対しては大変心強く思っています。

(Q) 北陸本線が三セク化した場合、特急並みの所要時間で走れる快速電車の実現性は

(A) 特急存続が厳しいとしても、やはり関西、中京方面に向けた交通利便性の確保のためには、何らかの次善の策を講じていかなければなりません。

特急並みの快速列車の運行についても、特急同様に厳しい状況と認識していますが、何とか実現できるように努力して行きたいと考えています。

(Q) 北陸線が三セク化すれば新駅の設置が可能になる。サンドーム近辺に新駅設置の展望は

(A) 福井県並行在来線対策協議会の中で利用活性化策の一つとして提案することを検討しています。新駅の設置は市町の要望に基づくものとされており、三セクの収入増が見込まれるかどうかの需要調査が必要となるほか、設置費用自体も地元負担とされていますので、国庫補助の活用も含めてサンドーム近辺を鯖江市の候補地として県に要望すべくその効果、実現性、諸課題等を整理していきます。



サンドームのすぐ近くを走る北陸線サンダーバード

(Q) 名古屋へのアクセスは、高速バスの役割が今以上に大きくなるはず。鯖江インターチェンジ近辺に市営駐車場を整備すべきではないか

(A) 名古屋はもちろん、東京、大阪、京都、小松、米原へのアクセスも含め、鯖江インターチェンジの高速バスターミナルとしての機能向上に向けた駐車場の整備は重要な課題

の一つです。今後設置場所等についての調査、検討を行います。



進入路まで車が溢れている鯖江IC駐車場

(Q) 鯖江のつつじバスが南越（仮称）駅に乗り入れは可能か（南越駅は仮称ですが、以後、仮称は省略します）

(A) コミュニティーバスの隣接市への乗り入れは法的、制度的にも可能です。南越駅は、鯖江市の最寄り駅としてアクセス整備を図っていく必要があります。隣接市町の理解を求めながら、鯖江市公共交通網形成計画に基づき、国庫補助制度の関係もあり、国や県も含め今後十分に協議を深めていきます。

(Q) 福武線の南越駅までの延伸を越前市とともに県や国に要望してはどうか

(A) 福武線は近年、国、県、沿線3市の多大な財政支援により、なんとかその運行を保持しています。沿線3市においてもこれからの福武線に対する支援の考え方には温度差があります。そのような厳しい状況の中で鯖江市は福武線を地域に欠かせない幹線鉄道としていかに今後も維持存続させていくかについて、隣接市と温度差をうめながら取



南越駅から鯖江へ直通電車を！夢が「フクラム」か？

り組んでいかなければなりません。この様に多額の費用を投資する事業を提案していくことは困難と考えます。

未来の鯖江を描く

将来、福武線がJR在来線とともに三セク化され一体経営となった場合、西鯖江駅をふれあい広場に移設出来ないかと考えています。

ここに駅を移設し、ふれあい広場一体を整備し、つつじバスのターミナルを設ければ、駅前広場と駐車場を備えた素晴らしい駅になるでしょう。JR鯖江駅とともに、もう一つの鯖江の顔になります。北陸新幹線南越駅からフクラムに乗り換え、西山公園、道の駅、嚮陽会館、ご本山、街なかと直結し、観光の拠点駅として存在価値が高まります。

20年後、50年後の鯖江を夢みて実現性を探っていたきたいと提案しました。



ふれあい広場と福武線

越前漆器協同組合 桂宮賞（第1位/2年連続）獲得

全国漆器展が東京青山の伝統工芸青山スクエアで開催されました。越前漆器協同組合は2年連続で桂宮賞を獲得しました。出品作品を市場性、デザイン性、技術力、機能性など総合的に評価し、産地毎に集計して団体賞が決まります。



あとがき 今回の台風19号の豪雨被害で注目されたのはハザードマップの情報の大切さです。鯖江市でも何度か配付しています。非常時にどこに避難すべきか認識するため、常に確認できるところに置くようにしましょう。